



特定非営利活動法人日本防災士会・富山県支部

富山県防災士会会報

第15号

平成28年7月1日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局：佐伯)

平成28年度通常総会 関係諸団体との連携強化と啓発活動の充実

平成28年度の通常総会は3月19日、富山県民会館において開催された。小杉邦夫会長は、平成28年度に向け、①7つの事業実施部会の充実 ②会員ネットワークの拡大と会員のスキルアップ ③行政および関係団体との連携強化 ④マス・メディアとの連携 ⑤啓発活動として防災講座と防災教育 ⑥自主防災組織への情報提供の6つの柱立てについて説明された。



小杉会長

とりわけ、各市町村の防災士同士の連携を進めるべく連絡協議会の設立や意見交換会・準備会が進められてきたこと。富山地方気象台、各市町村、マス・メディアなどの諸機関や地元団体等との連携強化がますます必要であること。防災講座や絵本読み聞かせを合わせて過去最高の134件となり、今後、要請が増える傾向にあることから、要請に応えるべく研修等を実施し、個々のスキルアップが必要であることなどが今後の取り組み課題として説明された。

また、平成27年度の新入会員14名の内、総会に出席した6名が自己紹介された。

審議結果は、平成27年度事業報告及び決算、平成28年度事業計画及び予算は提案どおり承認されたが、富山県防災士会会則改正の議案については、一部が継続審議となった。(記 吉澤)

特別講演 齊藤充 富山河川国道事務所副所長 『富山における災害とその対策』

総会に先立ち、本年もスキルアップを図るための特別講演会が行われた。講師は国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所の齊藤充副所長で、「富山における災害とその対策」について国土交通省の取組が紹介された。



齋藤副所長

冒頭に、富山県の成り立ちについて説明され、河川改修を主張する越中と道路改良を主張する加賀、能登の主張の違いが富山県と石川県の分県に繋がっていることの説明を受け、その富山県では、明治39年から着手し100年を超える大事業の立山砂防事業が今も続いていることや常願寺川や庄川、小矢部川での治水の取組など説明された。

とりわけ、神通川の治水と社会資本整備については、富山市が昭和初期に神通川の廃川地を活用した区画整理に取り組み、その後の富岩運河環水公園などの整備を進め、そしてコンパクトシティ政策を経て日本で初めて世界100都市のレジリエント・シティに選定されたことなどが紹介された。

このように、国土交通省の富山県での防災に関する取組みが、過去・現在・未来と時系列での分かりやすく説明され、大変意義深い講演であった。(記 吉澤)

平成28年熊本地震ボランティア活動報告 『被災状況とボランティア協力』

私(林 茂)は平成28年5月11日から14日まで(博多1泊、熊本2泊)、熊本県南阿蘇村と益城町へ富山県内同業者4名と一緒にボランティア活動(瓦礫処理と資材運搬)に行きまして。



林 防災士

JR博多駅から熊本駅へ九州新幹線で(35分)向かい、熊本駅の数キロ手前から、屋根を覆う多くのブルーシートの家並みが現れ被災規模の大きさを感じさせました。南阿蘇村では現在飲み水や食べ物の不足はなく、コンビニも営業していますが、被災地の方々によると罹災証明書を発行する役場(他県からの診断士200名応援)対応が相当遅延しているとのこと。また、ある自治体では建物の危険度判定が既に終わり確定していても、被災した宅地の安定度が?の為、工事にかからない箇所が多くあるそうです。仮設住宅への申し込み一つにも罹災証明書が必要で、避難所で無駄にただ待っているだけの方々が多く、劳しい思いをしました。(現在は被災写真を提示してOKになったそうです。)



益城町役場
(外壁と駐車場の補修工事中)

益城町では、災害時の為に用意していた空地が災害を受け予定の仮設住居が造れず、代替地探索中でした。地元の皆さんが口々にされることは、「この地に大地震が発生するとは誰もが思っていなかった」と…

行政や一般市民からは、直近に発生する地震の確率が低いと予想されていた熊本県での地震でありましたが、私は富山県民皆がより一層の防災意識を持ち、県内企業も危機管理の徹底を促進する環境づくりに努力すべきだと改めて実感しました。

新入会員
自己紹介

消防のPRと今後の抱負
～消防の経験を生かした防災活動～
防災士(黒部市) 佐々木 隆

消防署に勤務しておりましたので、PRも兼ね活動の一端をお話させていただきます。

平成23年に東日本大震災が起き、自衛隊・警察、そして消防からも緊急消防援助隊が派遣され、富山県隊は、宮城県名取市で救助捜索活動を実施致しました。



大規模災害時にどの都道府県の隊がどこに出動するのか黒部市においてもどの隊員を派遣するのか、まで事前に登録されており、隊員は1か月余り交代しながら被災現場で活動し、当市では少ない人員で消防業務を果たしました。原発事故もあり見通しの立たない中、消防団幹部から「人員不足があれば屯所に詰める」との心強い申し出があったことを支えとし、課題はありましたが、非常時体制下での業務を遂行することができたと思っております。

そんなことから、退職後も消防のお手伝いができないかと思っていた折に会長からお声掛け頂き入会させていただきました。入会して4年目になりますが、展示物の設営、研修・講演会の聴講や、学校防災アドバイザーとしては防災訓練に立ち会いました。今後も住民の皆さんのお役に立てるよう取り組んで行きたいと思っております。

第1回例会 気象庁ワークショップ
『経験したことのない大雨・その時どうする?』

6月18日(土)平成28年度第1回例会(25名参加)を富山地方気象台で開催し、富山地方気象台の永井直昭次長、八幡政志地震津波防災官、曲田克也防災気象官の指導のもと、「経験したことのない大雨 その時どうする?」との内容で、気象庁ワークショップを実施しました。



はじめに、気象台講師の方からビデオ映像を見ながら時間80mmの雨の降り方、河川の増水、河川の氾濫、がけ崩れ、土石流などといった実際の災害の発生場面についてのレクチャーを受けました。

その後のワークショップでは、班ごとにそれぞれの与えられた条件(居住環境・家族構成、年齢構成が異なる設定等)に従い、時間の経過に伴って出される防災気象情報に対応して、避難するタイミングや避難経路などについて討議・発表する形式でした。協議結果の発表において、避難行動として何よりも垂直避難を選択するという判断も示されました。班ごとの議論も多様で力強く、お互いに充実した時間を共有いたしました。

受講者からは、この度のワークショップの体験からしても、富山地方気象台と本会の連携が大変有意義なものであり、今回の研修で得たスキルの一層の深化を図り地域防災力の底上げの一助に繋がりたいとの声があがりました。

最後に、今回のワークショップの運営等にご指導いただいた富山気象台の皆さまに深く感謝申し上げます。

(記 島崎)

平成28年度 県市町村総合防災訓練日程

平成28年6月20日現在		
日付	市町村	会場等
8月21日(日)	黒部市	浦山地区
	射水市	串田地区
	氷見市	(北部、十二町、宇波)地区
8月27日(土)	富山県	砺波市・小矢部市・南砺市
	砺波市	油田会場: 砺波農村環境改善センター周辺
	小矢部市	鷺島会場: 小矢部市農村環境改善センター周辺
	南砺市	井波会場: 井波小学校周辺
	朝日町	未定
8月28日(日)	高岡市	平米、定塚、西条、川原、戸出(西、東)
9月4日(日)	魚津市	片貝地区
10月1日(土)	富山市	大山総合グラウンド
10月30日(日)	上市町	宮川小学校付近
	氷見市	(余川、布施)地区
11月頃	立山町	未定

※10月29日(土) 富山市清水町自治振興会 清水町地区センター

《編集後記》

前富山県防災士会会長 小林光雄氏が平成28年3月20日ご逝去されました。享年 69 歳でした。小林前会長は、富山県防災士会(平成19年5月)設立の原動力となられた方です。ご冥福をお祈り申し上げます。そしてありがとうございました。

先の熊本地震において、多くの被害が発生しております。本会では、少しでも被災地のお力になれるよう、義援金を贈ることといたしました。

この地震で亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様には衷心よりお見舞いを申し上げます。(Y)

【事務局からのお知らせ】

10月6日(木)に「立山カルデラ砂防体験学習会」を定員20名で実施いたします。詳細は決まり次第ご案内します。(佐伯)

